

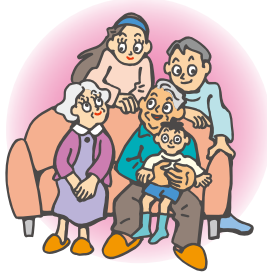
大腸がんは本当にポリープ
さえ注意していればいいのか？

以前は全ての大腸がんは、ポリープの形から始まるとされてきました。しかし、現在ではこの考え方は否定されています。ポリープから発生しない「がん」、隆起せずに平坦なまま、がん化することが分かってきたのです。こうした平坦な「がん」は、「デノボがん」と呼ばれています。これは、おそらく遺伝子変異の順番の違いからくるのではないかという説が有力です。

「がん」の発症する仕組みについて、最も解析が進んでいるものの一つに大腸がんがあります。大腸がんの80〜85%が多段階発がんにより発生するといわれています。

ポリープと無関係な「がん」

消化器内科



す。少し難しくなりますが、APC遺伝子の不活化により正常細胞から低異型度〜中異型度細胞からなる腺腫（良性腫瘍）へ、腺腫はK-ras変異により高異型度の細胞よりなる前がん状態へ、そしてこれにp53異常が加わることにより大腸がんが発生すると考えられています。一方、遺伝子修復機構に関わるミスマッチ修復遺伝子異常により、正常細胞から直接大腸がんが発生する場合を「デノボがん」と呼び、大腸がんの15〜20%

を占めていると考えられています。

「デノボがん」の発生には細胞増殖を制御するTGFβ受容体II等の遺伝子が関与していると報告されています。大腸がんはポリープだけから発生するものではないこと、そして意外に「デノボが



国吉 宣俊 さん
国吉病院 院長

ん」が多いのではないかと最近いわれています。

こうした遺伝子異常の道筋が解明されることで、将来的には細胞や組織の形で「がん」の診断をするだけではなく、遺伝子から精密に「がん」の診断が可能になるのではないかと期待されています。